

学年	教科	科目	教科書名	副教材名	単位数
高3 特進	理科	生物研究	高等学校生物 (第一学習社)	スクエア最新図説生物 (第一学習社) 国公立標準問題集 CanPass 生物基礎+生物 (駿台文庫)	3単位

1. 授業のねらい

- ① 生物学的な概念・思考方法を用いて、生物に関する知識を身につける。
- ② 他大受験に対応できる学力(特に考察力・記述力)の定着を図る。

2. 授業のすすめ方

- ① 1学期は共通テスト対策演習・記述型試験の対策について、演習を中心に授業を進める。
- ② 副教材の国公立標準問題集 CanPass で授業内演習・解説を行う。また、その際に実験・公式等が出る場合はその原理・考え方を講義する。
- ③ 授業に対して真面目に積極的に取り組むこと。疑問点は質問するなど、知識を習得するとともに内容理解を深めるよう努めること。
- ④ 問題集ノートを用意し、授業で取り扱わなかった問題もノートに解いておくこと。

3. 学習上の留意点

- ① 受験を意識して1年間真剣に授業に取り組み、より主体的な学習を行うことに各自努めること。自宅学習として授業の予習・復習をする習慣を定着させる。
- ② ノートを見直し、わからない部分などはそのままにすることなく、質問するよう努めてもらいたい。
- ③ 日頃から用語・概念など重要事項について理解を深め、演習問題を解答する中で、内容理解・計算力・考え方を身につけてゆく。
- ④ 考査前は計画を立て、問題演習を十分に行うこと。また、試験で正答を得られなかった問題を復習し、弱点の克服に努めること。
- ⑤ 問題集をきちんと学習し、基礎知識の定着を確認すると共に、大学受験に対応できる学力を身につけることにも努めてもらいたい。

4. 副教材・参考文献

- ① スクエア 最新図説生物 (第一学習社) を常に活用し、幅広い知識を身につける。教科書に載っていない専門的な知識の習得に利用する。実際に見ることができない生物や体内の微細構造を鮮明な写真で印象づける。
- ② 国公立標準問題集 CanPass の演習を行い、受験に対応するための実力養成を図るとともに、大学入試問題の過去問演習を行い、実践的な学力の向上を行う。

5. 評価の視点・テスト・課題等

定期考査による学習の到達度 (100点×3回) と平常点 30点 (提出物・授業態度・演習の取り組み状況など) で年間を通して評価する。

6. 定期考査

- ① 定期考査は各回 100点満点の問題で、1学期中間・期末、2学期期末の3回実施する。
- ② 定期考査は、試験範囲に関する問題を幅広く出題する。

授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	入試頻出テーマの演習及び解説 大学入学共通テストの実験・考察問題の対策演習	①宿題として出した問題の解答状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高1生物基礎・高2生物で学んだ学習内容における重要事項を確認し、理解を深める。 ・主要大学の過去問演習を行うことにより、学力の確認および弱点の克服に繋げる。 ・記述型の問題に慣れるために、問題演習を行い、キーワードを押さえ、正しい日本語で論述する。
	5	【1学期中間考査】	②問題集ノートの提出	
	6	国公立標準問題集 CanPass 第1章 細胞と分子 第2章 代謝	③授業中の取り組み（解答解説・発言など） その他課題などがあるときはその都度説明する	
	7	第3章 遺伝情報の発現 【1学期期末考査】	以上の3項目を主として1学期平常点20点満点に換算し、評価する。	
二学期	9	国公立標準問題集 CanPass 第4章 生殖と発生	①宿題として出した問題の解答状況	<ul style="list-style-type: none"> ・主要大学の過去問演習を行うことにより、学力の確認および弱点の克服に繋げる。 ・記述型の問題に慣れるために、問題演習を行い、キーワードを押さえ、正しい日本語で論述する。
	10	第5章 体内環境の維持 第6章 生物の環境応答 第7章 生物群集と生態系	②問題集ノートの提出 ③授業中の取り組み（解答解説・発言など）	
	11	第8章 生物の進化と系統 【期末考査】	その他課題などがあるときはその都度説明する	
	12		以上の3項目を主として1学期平常点20点満点に換算し、評価する。	
三学期	1	【特別授業】		
	2			
	3			